

研究部ニュース 2021年度第1号

2021年7月21日(水)

発行者：研究部(小森、大原、大河、松田、石橋、的場、岡)

平素は本校の教育及び研究活動にご協力いただきありがとうございます。今回の研究部ニュースは、今年度の研究の取り組みや研修活動を紹介させていただきます。

本校研究主題(学部研究)

知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメントの運用とキャリア教育の推進

令和元年度に設定した研究主題は、今年度で3年計画の最終年度となります。

1年目は各学部における教育目標を新学習指導要領に示された「3つの資質・能力」毎に設定し、それらの実現に向けた教育課程の編成を行いました。また、進路支援部と協働して「附属版キャリア・マトリックス」を作成しました。キャリア教育の観点を入れた各学部卒業段階で目指す姿を示しました。

2年目はこの「附属版キャリア・マトリックス」を活用し、各学部から2名児童・生徒を抽出しての事例研究及び授業研究を行いました。目指す姿に向かっていくためには、どのような教育内容が必要か、適切な支援の提示の仕方、授業の構成の仕方等を踏まえながら、設定した教育課程が子どもたちに寄り添ったものなのかの検証を行いました。

今年度はキャリア教育推進に向けて、各学部での取り組みの拡大と3学部を通じた教育課程の検討等のカリキュラム・マネジメントをさらに充実

させていく予定です。研究の成果は本校研究発表会で発表する予定です。

ユニット研究・自由課題研究の推進

学部研究に加えて、特別支援教育の今日的課題に対応するためにユニット研究・自由課題研究にも取り組みます。

ユニット研究では5つのユニットによる研究を進めており、学部研究と同じく3年目を迎えまとめの年となります。それぞれ「身体運動」「読み書き指導」「インクルーシブ教育」「どろんこプロジェクト(造形)」「プログラミング教育」と多彩なテーマで研究を進めています。これらの研究は本学特別支援教育部門等の先生方との共同研究として進めて参ります。ユニット研究の成果の発表は教大協・近附連合同研究会に於いてオンライン形式で発表する予定です。

また本校は研究校であることから、自由課題研究も推奨しています。教員の研究に対するニーズは高く、今年度も7人の教員がそれぞれのテーマを設定し、研究を進めます。自由課題研究の取り組みの発表は本校研究発表会に於いてポスター形式での発表を予定しています。

平野五校園共同研究の研究主題

一人ひとりの多様な可能性を広げる評価のあり方(2) ～主体性が働く【探究学習】プログラムと 学習評価モデル開発を目指して～

本校は大阪教育大学附属学校園の1校であり、平野地区に所属しています。平野地区には、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校があります。この五校園で共同研究に取り組んでおり、これを「平野五校園共同研究」と呼んでいます。

今年度から研究主題を「一人ひとりの多様な可能性を広げる評価のあり方～主体性が働く【探究学習】プログラムと学習評価のモデル開発をめざ

して～」と設定し、3年計画で研究を進めていきます。1年目にあたる今年度は五校園各校でこれまで実施してきた「探究学習」の分析と評価を行っています。

五校園共同研究発表会は11月6日（土）にオンライン形式で行う予定です。

特別支援教育連続講座 「エクステンション研修」

～With コロナの時代、障がい児への指導・支援をどうすすめるのか～

新型コロナウイルス感染拡大の影響により with コロナの社会へと大きく社会情勢も変わってきました。このような状況下において特別支援教育の分野でも今までの知識だけでなく様々なスキルが必要とされます。

本校は特別支援教育を推進していくにあたり重要な役割を担うこととなり、そのため幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校の教職員、大学院生、大学生を対象に研修を行います。研修内容は以下のとおりです。

| 講義演習内容 | 講師 |
|--|-------|
| 脳科学から捉える知的・発達障害 | 大内田 裕 |
| 障害のある子どもの保護者理解と支援 | 西山 健 |
| 体験、特支のプログラミング教育 | 仲矢 史雄 |
| 行動問題を抱える子どもに対する「行動の理由」を踏まえた支援 | 庭山 和貴 |
| 新学習指導要領に基づく知的障害児への指導 | 今枝 史雄 |
| 知的障害のある子どもへの読み書き指導—実践例— | 白樫 麻紀 |
| 支援を必要とする子どもたちの授業づくり —授業のポイントを具体的に考える— | 森田 安徳 |
| ポストコロナにおける知的障害児への指導・支援の在り方 | 岩崎 弘 |

令和3年度 本校における研究活動

